

2024年度新入職員研修を開催しました。

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



2024年5月8日(水)、9日(木)に、東京の神保町にて新入職員研修を開催しました。2日間にわたり、社会人、医療人として必要な心構えやマナーについての研修を実施。私からも理事長講話にて社会人としての責任と命の重さについて話し、社会人としての責任と命の重さについて話しました。

会場となったTKPガーデンシティPREMIUM 神保町には、すでに4月から全国の各病院施設で働く新入職員120名が集まり、新社会人として、また健育会グループで働く上での心構えについて学んでもらいました。また私からの理事長講話に加えて、花川病院がスポンサーを務める「レバンガ北海道」の折茂武彦代表からもプロフェッショナルとは何か?というテーマで講演をしていただきました。

はじめに午前の部では、人材育成のプロであるビーフォーシーの相部博子先生がオリエンテーションを実施。社会人への意識転換と医療者に求められる対人力についての研修を行いました。



午後の部では、健育会グループの歩みについて知ってもらうため、70周年記念式典の映像を放映。私からは理事長講話という形で、新社会人の皆さんにお話しました。その内容を紹介します。



今日の目的は、みなさんがどんな組織に就職したのかを理解してもらうこと、そして最高経営責任者の理事長である私の話を直接聞いて頂くという2つです。まずは社会人としての心構えをお話しします。

1つ目は、社会人としての責任。皆さんは今まで親や学校の責任のもとで守られてきましたが、社会人になったこれからは1人1人の責任が追及されるようになります。とくに人の命を扱う医療介護職は、1つ間違えれば患者さんやご利用者さんの命を失う事例に発展することもあり、「うっかりしてました」では許されない職場だということを自覚してください。

とはいえ皆さんは新人であり自分で責任は取れませんから、わからないことがあればまず上司に相談してください。患者さんやご利用者さんは、同じ白衣を着ている職員の誰が新人で誰がベテランかは全く見分けがつかせませんから、皆さんにも色々なことを聞いてきます。そこで自分が責任を持って答えられることは答えてそうではない時は必ず上司に確認してください。

患者さんが焦っているからといって絶対に生半可な返事、その場限りのいい加減な返事で逃げることはしないでください。それが後で大変な問題になります。患者さんに怒られても「上司に聞いて参ります」ということ。日頃から聞きやすい先輩を決めておくといいでしょう。今日から半年間、患者さんやご利用者さんに怒られても、耐え難きを耐え、忍び難きを忍ぶ姿勢で頑張ってください。それが皆さんの成長と組織の安定につながります。



2つ目はチームワーク。我々は、職場では「we are one team」、グループ全体では「our team」という標語を掲げています。私は、質の高い病院や施設とは「チームワークがとれている組織」だと考えています。スタッフ全員が患者さん、ご利用者さんの情報を共有し、自らがやるべきことをしっかりとやる病院組織です。今後、防衛費や少子化対策の強化によって医療費、介護費はどんどん抑制され、医療介護業界は受難の時を迎えます。その中で健育会グループは全員一致型の経営をしているところです。私が医者になった頃は、医師は経営なんてわからないし、ただ目の前の患者さんに良い医療を提供すればいいという考え方でした。しかし現在、そうした考えでは今日を乗り越えることができても明日には病院が潰れます。ですから職員全員が経営、運営に参加する自覚が必要です。それがour team型の経営です。

健育会グループは、年度ごとに各病院施設で予算を組んでいます。昨年からは安全、経営、親身な対応という3つの柱のもと、全員が経営に参加する形で予算を設定しました。チームワークを大切にして、病院全体の運営に自分が1つの力になるんだという意気込みで仕事をしてほしいと思います。



そしてチームワークの基本は、就業規則に則って行動することです。体調が悪く欠勤する際は、周囲に迷惑がかからないよう就業規則に則って欠勤届を出してもらうなど、基本的なことを必ず守ってください。そして規律正しく行動すること。規則と規律は違います。規律は、自らを律して正しく品格ある行動をすることです。これは一朝一夕にはできません。一定期間仕事をして自信がついて、患者さんや上司から褒められ、さらに研修という勉強をすることで自然と身につけていきます。

健育会グループには研修がたくさんあります。毎日患者さんに携わる精一杯の日々の中で、なぜ研修をしなくてはいけないのかと思うこともあるでしょう。しかし命を扱う我々は一生勉強しなければいけません。そのために研修をしっかりとしてもらい、規律正しい医療人になってほしいと思います。

3つ目は、医療、介護に携わる者としての使命感。皆さんの中には、小さい頃に病院で助けもらった経験から医療職を目指した人など、使命感を持ってこの仕事を選んだ方もたくさんいるでしょう。しかし、そうではない人もいます。

私も親が医師だからという理由で、何も考えずに医学部に進みました。医師になった時は使命感はなかったのです。しかし大学病院で8年間勉強してしごかれ、患者さんや上司から褒められることで、次第に使命感が芽生えていきました。

ですから健育会グループでは研修制度を充実させていますし、患者さんから褒められたことはみんなで共有しようと賞も設けています。直接褒められなくても、自分たちの部署や病院が評価されていることを自覚することで、自然と医療、介護に従事する者としての使命感が強まっていくと思います。健育会グループはそうした職場環境を目指して職場を整備しています。

私も大学病院時代、毎日忙しい中で学会発表の勉強が嫌でしたが、後になって本当に役に立ちました。研究発表は大変ですが歯をくいしばって勉強してください。研究発表は、医療人に欠かせない論理的思考も身につけることができます。



今日は一般的なお話をしましたが、半年後の研修では健育会グループの目指すものをお伝えします。健育会グループは医療界の風雲児であり、特色も豊かです。代用的なことをいえば、私のライフワークは病院の株式会社化です。これについて40年間大反対をされてきましたが意見を崩さず貫いてきました。皆さんには半年間で成長して、こうしたグループの特徴を聞く余裕が出るような医療人になってほしいと思います。

この後は、業界は違いますが本物のプロの話をお聞かせいたします。私は理事長職に就いて経営を勉強したいと思った時に、ある素晴らしい経営者から「本物に接しなさい」と言われて経済同友会に入り、本物の経営のプロに接しました。そのことが人間として、プロとして成長する大きなきっかけとなりました。今日お話いただくのは、日本プロバスケットボール協会ではレジェンド的存在で、全日本代表を何度も歴任し、つい数年前まで社長と監督を兼任していた折茂武彦代表です。

続いて、花川病院がスポンサードするバスケットボールチーム「レバンガ北海道」の折茂武彦社長に講演を行っていただきました。



皆さん、こんにちは。プロバスケットボールチーム「レバンガ北海道」の折茂です。本日は「プロ選手の価値とは何か？」というお話をしたいと思います。その前に僕のことを知らない人も多いと思いますので自己紹介をします。

我々は北海道の花川病院にスポンサーをして頂いています。「レバンガ北海道」は、前チームが経営不振によって3年で潰れたため、僕が2011年に選手を兼任しながら代表として立ち上げたクラブです。その時にたまたまNHKで僕の特集が放映され、それを見た竹川理事長からお電話を頂いて、スポンサーが決まりました。それから13年サポートを続けて頂いています。

当時バスケットボールはまだアマチュアの時代で、スポンサーがなかなか見つからず、理事長にお声がけいただいた時のスポンサーはわずか3社、従業員は3名でした。13年経った現在はスポンサー400社以上、従業員数40名となりました。初期から支えて頂いている竹川理事長は、チームにとっても僕にとっても恩人です。

僕は27年間プロ選手として現役を続け、ちょうど4年前のコロナの時期に49歳で現役を引退しました。野球、サッカー、バスケットボール全て同じですが、プロ選手はまず結果を出さなければクビになります。次の年はありません。プロ選手の付加価値とは、人が求める数、人が喜んでくれる数です。

今回、NBAで6年間プレイした渡邊雄太選手が日本に戻ってきてBリーグに参加するというので20クラブ以上が彼にオファーをかけ、争奪戦になっています。もちろん「レバンガ北海道」もオファーをかけました。彼を獲得する最低金額は3億円と言われていますが、これほどの大金を払う理由は为什么呢。1つは、NBAという世界最高峰で戦ってきた選手であり、実力は折紙つきということ。もう1つは、みんなが彼を見たいということ。彼を求めて会場にたくさんの方が来て喜んでくれるのです。この数が多ければ多いほど、プロ選手として価値があるのです。

皆さんもこれから働いて対価をもらいます。お金をもらうわけですから、業種は違うけれど同じプロです。だから結果を出して、患者さんに求められ、喜んでもらえるようにならなければなりません。それを意識して、仕事をするのが大切だと思います。



僕は27年間、日本代表に入って3回日本一にもなりましたが、特別なことはまるっきりしていません。色々なアスリートの方々にも、何か特別なことをやった方がいいのかを聞いたり、自分でも色々と考えました。結果わかったことは「当たり前のことを当たり前でできる人間が一番強い」ということ。これができなければ、特別なことをやろうと思ってもできるわけがないのです。当たり前のように努力をして、当たり前のように頑張っていて、当たり前のように感謝する。そのことはスポーツ選手も、社会人も一緒だとは僕は思っています。

そして自分を一番成長させてくれたのは、挫折、失敗、敗北です。アスリート、特にプロのスポーツ選手はここ向き合う時間が圧倒的に長いです。プロ選手でも勝ち続けることは不可能であり、挫折や失敗をします。僕も27年間で3回しか日本一になっていません。24回はボロボロ負けです。つまり苦しいことや辛いこと、うまくいかないことがほとんどなのです。これから皆さんも仕事をしていく上で挫折や失敗に必ずぶち当たると思います。でもそれは当たり前のことです。そこから逃げるか、向き合うかは自分次第です。僕は逃げなかったから、多くのことを学んで成長できたと思います。

思い返してみると若い頃の自分は、日本一になって何か素晴らしいことを得られるんじゃないかと思っていました。しかし実際になってみると大したことはありませんでした。喜びと充実感、達成感を感じても一週間ぐらいで忘れてしまう。でもファイナルで負けたら、「なぜ勝てなかったんだ?」「何が足りないのか?」と考えるきっかけになるのです。挫折や失敗は悪いことではないと思います。



先ほど理事長からチームワークのお話がありました。みなさんは健育会という組織に属し、我々も「レバンガ北海道」という組織の中でチームで動いています。

これは個人的な意見ですが、僕が1番嫌いな言葉は不平不満です。誰かが不平不満を言い出すと、それに便乗して周囲が巻き込まれていく。その人数が多くなればなるほど、組織は必ず壊れる方向へ向かっていきます。不平不満は自分の価値を下げます。不平不満ばかり言う人は信用できないし、一緒に仕事したくありません。だから不平不満があっても絶対に口に出して言うべきではないのです。

そしてプロは言い訳が通用しません。体調が悪くてもお金を払ってチケットを買って来てくれる人には関係ありません。それだけはしっかり胸に刻んでください。

皆さんはまだ若く、可能性は無限大です。僕は54歳ですが可能性はまだあると思っています、可能性を広げるために自分にいつも言い聞かせている言葉が3つあります。「行動し続けなさい」「継続し続けなさい」「挑戦し続けなさい」です。僕はバスケットしかしてこなかった人間で、右も左もわからない経営の世界に飛び込み、スポンサーが集まらずにプロ選手時代に貯めたお金を全部使い果たし、挙げ句に3億借金してこのクラブを続けてきました。

それぐらい失敗だらけでしたが、どんなに辛くても行動し、厳しい状況でも継続してきました。僕にとって経営はチャレンジでしかなかったです。結果、13年間このクラブは続き、ただのバスケットボールの選手だった自分の可能性は広がりました。どっちに転ぶかはわかりませんが、続けなかったら絶対いい方には転びません。だからどんなに辛く嫌なことがあっても、継続することが1つの手かもしれないと考えてみてください。

そして絶対に物事はネガティブに考えないでください。現役時代にネガティブに物事を考えて解決したことなんて1つもありませんでした。シュートを死ぬほど落として、次もまた落ちるんじゃないかと思って打たなかったらシュートはもう入らないのですから。ポジティブに物事を考えていけば、必ず解決策は見つかるし、必ず誰かが助けてくれると思っています。



最後に。どんな仕事も必ず人と関わります。そこで大切になるのが信頼です。そして簡単に聞こえますが、信頼を築くのは本当に大変です。僕はこれを得るために13年かかりました。信用も信頼もないからスポンサーがつかないし、銀行もお金を貸してくれないわけです。そして不平不満を言ったり、言い訳をしたりする人には信用、信頼は築けないということもぜひ忘れないでください。

今日お話ししたことは僕の経験談なので正解とは限りませんが、必ず皆さんの役に立つと思います。だから心のどこかにしまっておいて、あの時にこう言っていた人がいたなと、生活や仕事をする上で思い出していただければと思います。ぜひ新たなステージで頑張ってください。

講演の後は、近隣の神田カンファレンスルームをあわせた3会場に分かれて、ディスカッション形式のオリエンテーションを行いました。



相部博子先生、大内裕香先生、会田愛子先生の3名の講師陣がそれぞれ各会場を担当し、印象のマネジメント、医療者にふさわしい言葉づかい、電話対応やe-mailのマナー、高齢者への接し方などについての研修を行いました。



研修2日目も引き続き3会場に分かれて、仕事の進め方や組織人に必要な5つの意識について、ディスカッションや発表を交えながら進めました。



この研修での学びを活かして成長した皆さんと、半年後の研修でまた会えることを楽しみにしています。大変なこともあるかと思いますが、ぜひ責任感を忘れずに患者さん、ご利用者さんと向き合い、チームワークを大切にして、日々の業務に邁進して下さい。期待しています。